

五、交通と通信

1、交通

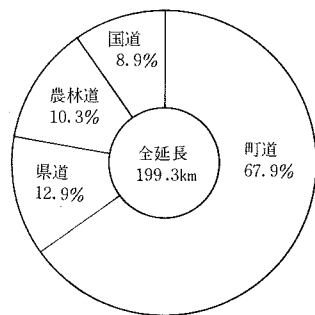
当町の交通は専ら道路輸送に依存しており、特に最近の陸上交通の伸びは著しい。車両台数の増加と共に車両が大型化し、又農業の合理化による農業用車両の増加が著しく、交通調査の結果を見ても年々増加の一途をたどっている。

交通量調査		
●日時 S.47.3.27 7:00~18:00		
●調査場所 川上 川見屋旅館前		
計	その他	ダンプ
六、八〇八	一、三五四	一、九一六
	乗用車	三、五二八
	普通乗用車、軽乗用車、普通ライトバン、軽ライトバン	
	トラック、バス、右記以外のもので二輪を除く	

(1) 道路の現況

S.48.12月末現在

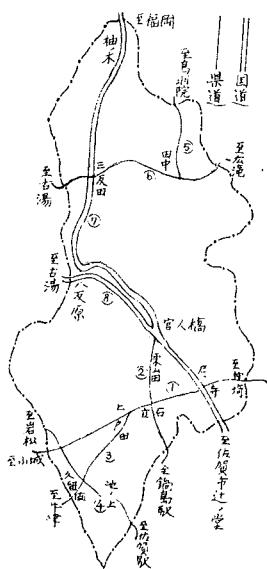
合 計	農 林 道	町 道	県 道	国 道	道 別 / 区 分	
					延 長 (km)	舗 装 率 (%)
一九九、三	二〇、五	一三五、三	二五、七	一七、八	一〇〇、〇	橋 梁 数
四八、二	一一、〇	三九、〇	八九、八	一〇〇、〇	一四	
二二七	九	一五八	三六	一四		



(2) 主要町道 (昭和四八・二月末現在)

路 線 名	起 点	終 点	延 長
尼寺・春日線	尼 寺	春 日	二、九一七
惣座・福田	惣 座	福 田	二、七六三
惣座・権現原	惣 座	権 現 原	一、八六四
福島・礫石	福 島	礫 石	二、二三六
尼寺・五領	尼 寺	五 領	二、五一〇
福田・今村	福 田	今 村 (小川)	二、八二五
久池井・金立	久 池 井	金 立	一、七八八
尼寺・真島	尼 寺	真 島	三、八〇
北 部	川 上	楠 茶 屋	三、七八六
中 央	大 願 寺	於 保 築 山	三、〇六六
東 部	水 上	一、八七	二、一八六
平 田	上 戸 田	一、九二六	一、九八六
池 上	於 保	三、八二二	一、三四〇
八 幡 原	大 久 保	中 央 線	一、二九二

路 線 名	起 点	終 点	延 長 (m)
嘉瀬川堤防線	名 護 屋 池	森 橋	三、三〇七
大 谷	屋 形 所 県 道 分 岐 点	背 振 村 境	二、五八三
仏 坂	三 反 田	宇 土 (古 道)	三、二二五
大 楮	大 瀬	大 楮	二、八一九
野 釜	橋 口	館 野 釜 分 岐 点	七六九



(3) 県道及び国道 (前図参照)

① 県道

久留米小城市線 (旧神崎小城市線)

大正九年四月一日認定



国道263号線（観音峠付近）

- ② 〃 鍋島停車場東山田線（旧川上鍋島停車場線） 昭和六年九月十一日認定
- ③ 〃 川上牛津線 昭和九年一月十三日認定
- ④ 県道、松尾佐賀停車場線（旧岩松佐賀線） 昭和九年一月十三日認定
- ⑤ 〃 藤原松瀬線 昭和三十四年四月一日認定
- ⑥ 〃 広滝古湯巖木線 昭和三十四年四月一日認定
- ⑦ 国道 二六三号線 昭和三十八年四月一日認定
- ⑧ 〃 三三三号線 昭和四十五年四月一日認定
- (4) 国道二六三号線 都渡城より三反田に至る県道が明治十年（一八七七）秋に着工し、同十一年秋に完成している。佐賀・小城・神埼三郡の山内の人々の努力によるもので、広坂に開通記念碑が建立されていたが、その後の道路拡張のためその所在が不明である。

大和町から北部山嶺地帯を貫いて走る一般国道二六三号線は、この県道が昇格したもので、佐賀・福岡両市を最短距離で結び、佐賀市辻の堂——福岡市西新町間総延長五二・四キロの道路である。

昭和三十八年二級国道として昇格し、更に昭和四十年「一般国道二六三号」として誕生した。昭和三十七年五月より国の事業として起工され、県内分の総事業費七億三千六百八十万円で、昭和四十五年九月竣工した。これで全線が舗装され、佐賀・福岡両市間が車で一時間半に短縮され、産業、経済の発展はもとより、三四号線の交通緩和に大いに役立っている。福岡県境まで延長二二キロ、道幅五・五メートルの舗装道路で、更に昭和四十六年より五か年計画で、官人橋より渡月橋間を車道七メートル、歩道三メートル、路肩一メートル、計一〇メートルに拡張し、渡月橋から三反田までを車道七メートル、歩道二メートル、路肩一メートル、計一〇メートルの拡張工事が進められている。

沿線は川上県立公園の清流と渓谷を眺め、野鳥のさえずりを楽しみながら、雄大な背振連山を縫うて走る快適なドライブコースでもあり、愛称を「北山バードライン」と呼ばれている。

(5) 国道三三三号線

この国道は大正九年四月一日県道として認定されていたもので、佐賀市松原町を起点として唐人町を経、いわゆる川上街道を北進し、官人橋を渡って古湯を通り浜崎が終点になっていた。この県道が昭和四十五年四月一日の認定で国道三三三号線に昇格した。したがって、神野踏切りより都渡城までは国道二六三号線と重なっている。昭和四十九年現在、官人橋より浜崎玉島町に至る舗装増幅工事が進められ

(6) 町内の主な橋梁 (S.49.4月現在)

所管	橋梁名	完成年月	橋長 (m)	幅員 (m)	歩道	
					幅員 (m)	完成年月
県	三反田橋	S. 9.3	20.6	5.6		
"	名護屋橋	27.3	232.0	5.0	2.5	S.46.3
"	官人"	28.3	66.3	5.5	1.5	47.3
"	渡瀬" (平田")	31.3	213.8	4.5	(木橋、鋼橋混合橋)	
"	池森"	39.3	153.0	5.5		
町	昭和"	40.3	60.0	4.5		
"	渡月"	43.3	47.7	2.0		
"	惣座"	47.3	241.0	5.5		

(7) 車両数の推移

区分 年次	総数	普通車	原動機付車 (50cc以下)	自動車 二輪車	軽自動車				
					三輪車	四乗 用	四貨	軽物	農耕用
S. 44	4,640	1,271	1,892	76	38	228	837	298	
45	4,916	1,563	1,725	75	15	382	927	229	
46	5,041	1,747	1,596	72	7	474	937	208	
47	5,468	2,113	1,533	63	1	643	957	158	
48	5,783	2,456	1,485	65		721	916	140	

ているが、その完成は昭和六十年度の予定である。

2、通信

(1) 有線放送

町行政と地域住民との諸連絡、住民相互の利便のため、国の補助を受けて有線放送施設が整備された。

松梅地区は三村合併以前すでに山間僻地電話が設置されていたので、先ず春日・川上地区に事業費三百九十六万八千円で設備し、昭和三十三年四月から通話を開始した。松梅地区は同三十四年度工費百八十八万円で施行し、同三十四年八月から全町内の通話放送ができるようになった。その後一般の加入も増加し、町民に

も親しまれていたが、普通電話の普及により昭和四十九年一月九日から廃止された。

(2) 電話

電々公社電話は春日・川上地区の一部が普通加入区域外であったため加入電話がなかったが、昭和三十一年度より逐次設置され、大願寺、今山、久留間、池上、平田、水上、小川、野口、八反原の計九か所に設置し、松梅地区と同様、町内に公社線が利用できるようになった。

その後、加入者も増加し、更に需要数も多いので、昭和四十七年二月二十五日より春日局は自動化(ダイヤル式)し、加入者三三二九、次いで同四十八年二月二十一日三反田局が自動化し、加入者五七三、全町が自動化して約八〇パーセントの普及率となっている。

六 治安

1 警察

「警察」という呼び名は明治維新以後のことで、これは「危害を警戒し、これを未発に察する」という意味である。「警察官」というのも始めは「ポリス」といつていたが、「巡邏査察」からとった邏卒・巡査という名称が作られたという。これは単に言葉だけのものではなく、警察という概念そのものが新らしかつたことを示している。つまり江戸時代の治安機関であった与力・同心・目明し・岡っ引き等は専ら